

編集室

* 今回、「2030年の科学技術大予想」という特別小特集を組ませて頂いた。この特別小特集は20ページほどであるが、漫画家の松本零士先生をはじめ、第一線で御活躍の先生方、若手研究者に未来を予想する記事を書いて頂いた。皆様、大変お忙しい先生方ばかりで、貴重な時間を割いて下さったことに厚く御礼申し上げたい。また、編集委員の諸氏にも大変御尽力頂いた。この場をお借りして御礼申し上げる。

* さて、今回の特別小特集の主題は、20年以上先の科学技術を予想するという大胆な発想のもと、漫画家の松本先生には「夢」、科学技術の第一線で御活躍の富永先生には「伝気通心の実現」、大口先生には「2030年の映像制作」、内海先生には「グローバルな視点から見た日本の未来」、荒川先生には「女性研究者から見た科学技術の予想」、若手研究者の板井先生、安部先生、山本先生、高橋先生には、「ざっくばらんな未来像」を語って頂いた。

* 内容は、バラエティに富んでおり、正月に読むには、なかなか面白い記事になっていると思いますが、皆様はどう感じられたでしょうか。2030年の大予想といっても、著者により、様々な予想があり、私から見ると、そうなるのかなあと思うところもあれば、そうはならないような気がする部分もある。皆様も2030年の科学技術大予想をしてみたいかでしょうか。

* 私も、趣味であるサッカーをテーマに2030年の予想を試みた。私は、週末はサッカーを楽しみにしている。試合

の観戦もあるが、自分たちでプレーすることもある。2030年ごろのサッカーの試合は、どうなっているであろうか。私なりに、予想してみる。サッカーボールには、ICチップが組み込まれ、ゴールに入ったかどうかの判定は、自動的に判定されることになるだろう。また、サッカーにはオフサイドという難しいルールがある。攻撃するときには、パスをした時点で、自分より前に、相手チームの人間が二人以上いないと、オフサイドという反則になり、相手チームのボールとなる。審判は、瞬時に、ボールと守備の人間、攻撃の人間の位置関係を判断しなくてはならない。2030年には、ユニフォームにもICチップが組み込まれ、この難しい判断が機械でされるようになり、審判のミスもなくなる。また、対人プレーにおける反則、例えば足を掛けて、相手プレーヤを倒す等の判定も、ユニフォーム、スパイクに組み込まれたICチップと、機械判定により、反則の判定がなされるであろう。このことから、審判のミスもなくなり、選手は、試合に集中でき、好ゲームが期待できる。これは良いことだが、審判ミスがないのも、寂しい気がするの、私だけだろうか。2030年に、このようになっているか、2030年に確かめたいと思う。

* 現状の課題から未来がどうなるのか、予想することにより、新しい研究テーマなど出てくれば、素晴らしいことである。本特別小特集が、皆様のお役に立てるようであれば、幸いである。

(編集理事 山本浩治)